

# 釧路駅周辺の再整備方針案 たたき台 について

釧路駅周辺の再整備の方向性	方向性を踏まえた「再整備方針案 たたき台」検討の3つのポイント		
都心部を車優先から 人と公共交通中心の空間へ	ポイント1 まちとまちをつなぐ RINK	ポイント2 ひととひとをつなぐ RINK	ポイント3 ひととまちをつなぐ RINK

## ポイント1

### まちとまちをつなぐ RINK

3つの「軸」により、まちとまちをつなぐことを重視します  
まちの骨格であり、釧路のアイデンティティとなるぎわい交流軸  
【共栄新橋大通⇄北大通⇄幣舞橋】  
釧路駅周辺（ゲートウェイ）では、南北のまちをつなぐ街並みと歩行者動線をつくります

軸1  
来街者が多く往来する施設やリバーサイドに至る回遊軸  
【釧路駅⇄幸町公園通⇄リバーサイド】

軸2  
高架下等でまちがつながる東西軸  
【寿・白金町⇄釧路駅⇄川北・旭町】  
高架下等で東西の歩行者動線を確保し、駅へのアクセスと東西の行き来を円滑にします

## ポイント2

### ひととひとをつなぐ RINK

フォーカルポイントとなる、ひととひとをつなぐ場を創出することを重視します。  
都心部まちづくりフォーラムにおける以下の示唆は、釧路駅周辺に求められる本質的な役割が含まれると考えます。  
駅は特別性の高い場所。フォーカルポイント（双方が相手の立場になって選ぶ場所）になっている。将来、待ち合わせをしたいと思われる場所になることが重要。  
(高野教授講演内容)

3つの「軸」が交わる場フォーカルポイントをつくる  
まちとまちをつなぐ3つの「軸」が交わる場は、人が訪れやすい、釧路を象徴する空間「フォーカルポイント」として、様々な機能を誘導することで、市民や来訪者が憩い・集い・交流できる空間とします。

鉄道利用だけではなく景色を見に来たり、特に用事がなくても行ってみるかと思える場所になるとよい。  
観光案内所のスタッフを務めていた際に最も多く尋ねられたのは2〜3時間を潰せる場所がほしい。 原田香苗氏発言内容)

## ポイント3

### ひととまちをつなぐ RINK

車が利用しなくても幅広い世代が訪れることが可能な環境をつくることを重視し、利便性の高い駅直近に公共交通の結節機能(バスターミナル等)を配置

新たな南北道路2路線を整備し、車による都心部の往来をスムーズに

車のアクセス利便性を高める結節機能(交通広場等)を充実

### 歩行者ネットワーク概念図

歩行者ネットワーク(案)  
ウォーカブル道路  
主な施設・エリア

画像出元: Google Earth

### 釧路駅周辺の再整備方針案 たたき台

まちとまちをつなぐ RINK 3つの軸上に歩行者動線を設定。駅前区間( )は建物と一体的に街並みを形成します。  
ひととひとをつなぐ RINK 3つの軸が交わる場にフォーカルポイントとなる屋内・屋外の公共空間を創出します。  
ひととまちをつなぐ RINK 高架下にバスターミナルを集約し、バス⇄鉄道の乗継利便性と待合環境を確保します。

【凡例】

- 賑わいや交流を創出する機能・エリア
- フォーカルポイント(ひととひとをつなぐ)
- 交通結節機能(ひととまちをつなぐ)
- 駐車場(車のアクセス利便性を高める)
- ウォーカブル道路(まちとまちをつなぐ)
- バス専用道路
- 主要な歩行者動線(まちとまちをつなぐ)
- 車の交通結節機能や駐車場へのアクセス動線

【備考】

- このたたき台は、議論を深めるための参考であり、確定したものではない。今後市のHPやフォーラムで説明し、市民理解の促進に努めるものとする。
- 〇とくに、バスターミナル等の交通結節機能や鉄道施設、バス専用道路の線形については、現在関係機関と調整中であり、今後変更もありえる。